

1 題材 「グループの思いを込めたリレー音楽の創作」

2 指導観

- 昨今、AIによる作曲機能が発展し、曲を自動で生成できるようになったが、これらは音を紡いで音楽として表現するといった思考過程までも自動化されている部分が多い。人間が何らかの思いをもち、試行錯誤しながら具現化するといった、創造性の価値の見直しが求められている。

本題材は、循環コードの特徴やその効果に関心をもち、表したいイメージにふさわしい音楽に近づけるための工夫を重ねながら、創作に必要な五線譜の読譜や記譜の技能を身につけることを通して、音楽によって自己の生活の質を向上させようとすることをねらいとしている。学習内容としては、循環コード、音楽のスムーズなつながりや全体のまとまり、旋律や音色、速度と表したいイメージとの関わり、五線譜の読譜や記譜などがある。循環コードとは、「不安定」が「安定」に進むときに生まれる強い推進力を使って「安定」から始まる構成を繰り返すといったものである。ジャンルを問わず、多くの曲で使われている作曲技法の一つであり、人間の気持ちの安定や意欲の向上にもつながるものである。本題材を学習することは、音楽とイメージや感情との関わりに対する感性を働かせ、グループでの協働の必然性を感じ、共に感性を磨き合いながらイメージにふさわしい音楽を創造していくことにつながるため、大変意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、各グループの「気分が高揚する（落ち着く）ような音楽」のイメージにふさわしい音楽の創作について追求させたい。そのためにまず、循環コードの効果を感じ取らせ、コードに合わせて音を重ねさせる。ここでは、コードの構成音と旋律の関係を感じ取らせるために、コードの構成音と同じ音で作られた旋律とそうでない旋律を比較して聴取させ、その違いを問う。次に、既定の循環コードに合わせて、リレー形式の音楽をつくらせる。ここでは、各グループの作品にまとまりをもたせるために、「気分が高揚する音楽」「気分が落ち着く音楽」のどちらかを選択させ、それぞれ4名程度ずつグルーピングする。また、グループで協働しながら工夫を重ねさせるために、スムーズなつながり方や表したいイメージと旋律との関わりへのふさわしさの視点で意見交流するよう指示する。さらに、作品を通して意見交流し、工夫を吟味する。ここでは、新たな視点をもって工夫を吟味させるために、同テーマ同士、異テーマ同士で作品を聴取させ、それぞれのよさや共通性・固有性について着目するよう促す。最後に、作品を仕上げ、全体で相互に鑑賞する。ここでは、生徒に自由に鑑賞させるために、クラウド上に作品をあげさせ、聴いた作品のよさとして気づいたことを全体共有する。

3 目標

- 表したいイメージと旋律や音色、速度との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な五線譜の読譜や記譜の技能を身につけることができる。
- 旋律や音色、速度について知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表したいイメージにふさわしい音楽をどのように作るかについて意図をもつことができる。
- 旋律や音色、速度の違いによる雰囲気の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4 計 画 (7 時 間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて (○) 研究に関する手だて (◎)	評価規準
一	2	1 コードに合わせて旋律をつくる。 (1) 循環コードの効果を感じ取る。 ・作者の思い ・循環コード	○ 作品に込められた作者の思いを感じ取らせるために、「Let it be」の歌詞の和訳や背景を解説し、同じコード進行が反復されている効果を問う。	態：循環コードの特徴に関心をもち、作者の思いを感じ取る活動に主体的に取り組もうとしている。
		<p>学習課題</p> <p>学校のとある場面で聴くと、気分が高揚する（落ち着く）ような、循環コードを生かした音楽をつくらう。</p>	◎ コードの構成音と旋律の関係を感じ取らせるために、即時演奏機能を活用し、コードの構成音と同じ音で作られた旋律とそうでない旋律を比較して聴取させ、その違いを問う。 【A1】	
二	2	2 グループごとにリレー形式の音楽をつくる。 (1) 既定の循環コードに合わせて、各自の担当の部分の音楽をつくる。 ・表したいイメージと音のつながり方、リズム、速度、音色の関わり	○ 各グループの作品にまとまりをもたせるために、「気分が高揚する音楽」「気分が落ち着く音楽」のどちらかを選択させ、それぞれ4名程度ずつグルーピングする。	思：表したい思いやそれを音楽で表すための音のつながり方、リズム、速度、音色についての意図をもつことができる。
		(2) グループで作品をつくる。 ・前後の作品とのスムーズなつながり	◎ グループで協働しながら工夫を重ねさせるために、即時演奏機能を活用して、「コードの構成音を中心につくれているか」「音の高さやリズムはスムーズにつながっているか」「表したいイメージにふさわしい音楽に近づけるためにどのような工夫をしているか」という視点で意見交流するよう指示する。 【C3】	
三	1	3 作品を通して意見交流し、工夫を吟味する。 ・音のつながり方、リズム、速度、音色に関する新たな工夫の観点	○ 新たな視点をもって工夫を吟味させるために、同じテーマ同士、異なるテーマ同士で作品を聴取させ、それぞれのよさや共通性・固有性について着目するよう促す。	思：音のつながり方、リズム、速度、音色について新たな視点での工夫についての意図をもつことができる。
四	2	4 それぞれの作品のよさを味わう。 (1) 作品を仕上げる。 ・作品全体のまとまり (2) 全体で相互に鑑賞する。 ・表したいイメージに対する音楽表現のふさわしさ	○ 作品に込めた思いや意図をより明確にさせるために、表したいイメージと音楽を形づくっている要素の関わり方の視点で「こだわりポイント」として文章表現させ、作品に添えるよう指示する。 ◎ 生徒それぞれに自由に鑑賞させるために、クラウド共有機能を活用し、クラウド上に作品をあげさせ、聴いた作品のよさを全体共有する。 【C1】	知：全体のまとまりを吟味しながら、五線譜で表現する技能を身に付け、旋律で表すことができる。 態：それぞれの作品のよさを味わう活動に楽しみながら取り組もうとしている。

5 本時 令和3年10月28日(木) 第2校時 計画 第二次の2 音楽室にて

(1) 主眼

- 自分の作品と前後の作品とのつながり方について意見交流する活動を通して、スムーズにつながるような音楽を五線譜で表すことができる。

(2) 準備

- ①リレー創作の作品例 ②学習シート ③試行錯誤の仕方を確認するための掲示物
- ④工夫の観点を確認するための掲示物

(3) 過程

学習活動・内容	準備	手だて(○)と研究に関する手だて(◎)評価(◇)	形態	配時
<p>1 工夫の観点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音のつながり方(音の高さ),リズム,速度,音色 <p>めあて 自分の作品と前後の作品がスムーズにつながるように工夫しよう。</p>	<p>① ②</p>	<p>○ 工夫の観点を明確化させるために,創作分野の前題材で学習した工夫の観点を問い,例を提示する。</p>	一斉	5
<p>2 前後の音楽との音のつながり方を試行錯誤する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定感のある音のつながり方 ・統一感のあるリズム 	③	<p>◎ 前後の音楽とのつながり方の工夫を重ねさせるために,同時編集機能を活用して,①前の人→自分,②自分→後の人,③前の人→自分→後の人の順で,自身の担当以外の部分も含めて再生⇄試行錯誤の往還を繰り返すよう促す。【B3】</p> <p>○ つながり方をスムーズにするための工夫を促進させるために,考えが進まない生徒には音楽を形づくっている要素(特に,音の高さ,リズムの視点)で,前後の担当の人との共通点や相違点を見つけさせ,そろえた方がいいか,あえて変えた方がいいかを問う。</p>	個	15
<p>3 作品の音源をグループ内で同時に聴きながら意見交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズな音楽の流れ ・表したいイメージと音楽の関わり 	④	<p>◎ グループで協働しながら工夫を重ねさせるために,即時演奏機能を活用して,グループで1つのタブレット端末を共有して作品を同時に聴取させる場面を設定し,「コードの構成音を中心につくれているか」「音の高さやリズムはスムーズにつながっているか」「表したいイメージにふさわしい音楽に近づけるためにどのような工夫をしているか」という視点で意見交流するよう指示する。【C3】</p> <p>○ それぞれのグループの工夫点に新たな視点をもたせるために,机間指導しながら各グループの音源を一緒に聴取し,称賛や助言などの形成的評価を行う。</p>	グループ	25
<p>4 本時での工夫点をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を媒体とした思いや意図の表現 		<p>○ 各グループで作品に込めた思いや意図をより明確に表現させるために,「今日最も効果的だった工夫は何か,またそれはなぜか」と問う。</p> <p>◇ 表したいイメージを基に,前後の音楽とスムーズにつながるような音楽を,音のつながり方やリズムの視点で工夫し,根拠をもって五線譜と言葉で表すことができたか。 <学習プリント,作品分析></p>	個	5